

健康教育

- ☆ 「鳥海の高きに向かう子ら」の教育……………2
- ☆ 三原の教育
—新しい世紀を創造する
たくましい子どもの育成—……………6
- ☆ 鈴木浩之君の健康優良児日本一に思う……………9
日本一健康優良児鈴木浩之君
—喜びと望み……………10
浩之を育てて……………11
日本一になって……………12
- ☆ 「健康優良児日本一」の背景……………13
梨子さん ほんとうに おめでとう……………14
努力の積みかさね・梨子……………15
ドンブリ会議の中から……………16
12年をふりかえって……………16
- ☆ 「特選健康優良児」の誕生を喜ぶ……………17

昭和48年度健康優良児

朝日新聞社提供・矢田哲也氏撮影



NO 64



「鳥海の高きに向かう子ら」の教育

山形県飽海郡遊佐町立遊佐小学校長

山 岸 貞 一

昭和48年度 経営計画

学校教育目標とその展開（構造）

教育基本法第1条「教育の目的」（全人教育の立場）本校児童の特性、地域の課題、社会の要請から

(47. 4. 20 設定)

遊佐町立遊佐小学校

求める学校のすがた

1. 明るく生き生きとした学校
(明朗・清新・躍動)
2. 美しく整った学校
(清潔・整美・調和)
3. 静かな集中できる学校
(自律・集中・充実)

本校教育目標

1. たくましいからだをもち、最後までやりぬく子どもを育てる
強い心と強いからだ(体位体力の向上・活力・意志力・おぼり)
2. 深く考え、勉強や仕事にくふうをこらす子どもを育てる。
思考力鍛え、創造的・合理的自己実現
3. 人にめいわくをかけず、進んで人のために働く子どもを育てる。
自他の人格尊重(責任・親切・奉仕・勤労・連帯)
4. 礼儀正しく、美しさを求める子どもを育てる。
言語動作のおりめ正し、価値への志向(真・善・美・聖)

学校経営の基本的態度

1. 一にも二にも学校教育目標の達成をめざし、計画—実践—評価—改善の経営サイクルを重視し、本校児童の特性に即応した経営の確立をはかる。
2. 経営体として職員ひとりひとりの創意を生かしながら、教師集団の結果を高める。
3. 学校経営と学級経営の一貫性を期し、全人教育をめざして教育課程の調和的運営をはかる。
4. 明るく生き生きとした学園を建設するため、教師の絶ゆまない研鑽を推進し、教育活動の計画化、効率化、活発化をはかる。
5. 健全な心身の育成と人間尊重が明るく生き生きとした学園建設の基底であることを肝に銘じ、健康安全と個性尊重、児童ひとりひとりの可能性のひきだしに努める。職員もまた心身の健康管理に留意し、ゆとりをもって経営にあたる。
6. 情操醇化のため学校環境の整美に努め、施設設備の充実と学習環境の整備をはかる。
7. 伝統を築き、校風の発揚に尽くされた先輩、地域民に感謝し、父母・地域との提携を強化する。

本年度重点努力目標

1. 子どもひとりひとりと人間的なふれあいを深める日課表の運用
2. 子どもがからだをのりだして求める授業
3. ひとりひとりが生きる生徒指導と学級経営
4. 強い心と強いからだづくり
5. 科学する心と豊かな心を育てる環境の整備

| 教科 | 達成のための主な内容 | 推進 担当者 | 評価と その時期 |
|-----------------------|---|-----------|-------------|
| 教 科 | 努力目標 1. 2. 3. 4 ・各教科具体的努力目標の達成のための実践 ・問題解決(国・算・社・理)学習と60分(ロングタイム)活用 ・重点研究理科の研究実践と授業研究(10月公開) | 略 | 略 |
| 道 徳 | 努力目標 2. 3. 4 ・公德心の養成と、年間指導計画充実のための資料整備 | 〃 | 〃 |
| 特 活 | 努力目標 1. 2. 3. 4 ・自主的態度の育成(児童朝会多様化とクラブ発表会) | 〃 | 〃 |
| 全 領 域 中 で | 努力目標 1. 3. 4. 5 ・日課表(人間的なふれあいを深める)運用研究 ・情操教育と環境整備 ・健康安全教育(体力づくりをふくむ)の研究実践 | 〃 | 〃 |

学年学級経営

学校教育目標を達成するための、学級における指導計画表

- ・学級経営目標と分析された内容の月ごと評価

総括課題

ひとりひとりの子どもを生き生きと学習に参加させる

本校教育目標と課題達成のための両輪(研究主題二つ)とそれを結ぶ軸

<第1研究主題>

◎子どもがからだをのりだして探究していく授業(教科研究の代表)

<第2研究主題>

◎くじけない心と強いからだづくり(運営研究の代表)

左の輪 探求の過程を重視する理科の学習指導

軸 情操教育、それに道徳教育、生徒指導、学級経営の強化充実

右の輪 健康安全学習形成の徹底と積極的な体力づくり

主題に迫る手だて(略)

主題に迫る手だて(略)

鳥海の高きに向かう子ら

—— 地域と学校の概要

遊佐町は山形県の北西部、庄内平野の北辺にあたり、秋田県に接している。黒松林の庄内砂丘の西が日本海、鳥海山麓を大きくとりこんだ米の単作地帯であり、国道7号線が南北に海岸線を縦貫する。人口2万、小学校8、中学校3、高校が1校ある。

学区は全町平野部分のほぼ中央に位置し、羽越本線遊佐駅の北と東にひろがり、政治的・経済的・文化的に遊佐町の中心となってきた地域である。学区の外辺部が純農地区で、職業構成では3分の1が「庄内米」で知られる銘柄を生産する専業農家であり、商工業の自家営業・会社員・公務員がこれに次ぐ。

学校は駅から北東に歩いて10分、出羽富士と呼ばれる秀麗な鳥海の山容を真近に仰ぎ、清流月光（がっこう）川のほとりに庄内美田に囲まれて建つ。月光川は鳥海山系の水を集めて吹浦の海に注ぐ。北海道を除き本州第1の鮭の遡る川である。創立64周年、校舎は昭和5年建築の木造2階建てで古い、緑を配して清明な自然景観に調和している。

学級数15（うち特殊学級2、全町から）児童数440 教職員の数は20名（ほかに町職員が6名）で、比較的経営しやすい規模である。子どもたちは環境に恵まれ公害をよそに、受験体制に組みこまれることもなく、のびのびと「鳥海の高きに向かう子ら」（中央審査委員会に提出した150ページの実践報告書表題名）であり、朝な夕なその黙示に学んでいる。

ここ10数年の本校の研究をふりかえってみると、学習指導と生徒指導の両面が、ほぼかたよりなく実践されてきたことに気づく。健康教育は底流にあってこれを支えてきたようであり、格別健康教育にウエイトをかけた形跡は見られない。たまたま昭和46年に健康優良学校の準県1位に選ばれていたのも、一歩を進めようではないかと、わたしの赴任した47年から健康教育の一端を二つの研究重点の一方に採りあげたのが初めてである。（構造図参照）この2年間とて他方に重点が傾き、健康教育の方は、はいずりまわったというよりほかはない。ちなみに、健康優良関係の最近5か年間の主な表彰は、次のとおりである。

- 昭43 全国よい歯の学校（以後6年連続）
- 昭44 県保健優良学校 健康優良児童準県1位
- 昭45 健康優良児童準県1位
- 昭46 健康優良学校準県1位
- 昭47 健康優良学校県1位（山形県代表校）

子どもの全面発達を願って

—— 学校教育目標の達成即健康教育

わたしたちは、本校の子どもをかく伸ばしたいと考えて、昭和47年4月に「たくましいからだをもち、最後までやりぬく子どもを育てる」に始まる四つの学校教育目標を設定した。もとより未来にはばたく子どもたちの将来を考えて、全人教育を大前提とした。この目標の具現化を学校経営の基盤にすえ、その総括課題である「ひとりひとりの子どもを生き生きと学習に参加させる」ことを全職員が共通理解し、課題解決の総合的な展開にあたってそれぞれのパートを真剣に経営してきた。「学習」とは、もちろん全教育活動をさす。

わたしたちは、子どもたちが「学校は楽しいところだ」として、「生き生きと学習に参加する」ことが、非常に大きな意味にふくらませて健康教育だと考えている。子どもたちの全人間的な形成発達をめざす教育は、心身の健康を根幹とせずには考えられない。多少飛躍し短絡してはよいが、学校教育目標の達成（全人教育）即健康教育の図式を考えているゆえんである。以下構造図に示した本年度努力目標の項目を追って、現状を述べてみたい。

○努力目標1. 子どもひとりひとりと人間的なふれあいを深める日課表の運用

研究研究で明け暮れていることはいい。しかし、人間性の回復を求めながら子どもたちと遊ぶひまも見出せないでは、子どもをだいじにしていると強弁することはできない。障害は日課表の過密ダイヤにある。

- ・1単位時間を通年40分にする。（ただし4年以上は1日1回60分の時間をもつ）クラブ活動は50分。
- ・体力づくり時間の特設。（業間体育なし、休み時間はのびのび遊ぶ。1日の学校安全の日と15日の環境衛生の日は全校体操）
- ・児童集会・児童実践部会の位置づけと育成。
- ・6校時授業をつとめて追放、実践部の奉仕活動、師弟ともに汗して働く作業を重視、そのほかはともに遊ぶ。

○努力目標2. 子どもがからだをのりだして求める授業

子どもたちは多量の知識を単に受動的につめこまれるのではなく、子ども自らが主体的に追究していく、知的発見の感動、学ぶことの喜びを体験する。量ではなく質として選び出されたものを、子どもに探究させ真の意味の知育を求める。

- 60分ロングタイムの設定。4年以上土曜日を除く毎日1時間の帯を固定、国・社・算・理のうちの1教科の問題解決学習（ないしは探究学習・発見的学習）実施。
- それを可能にする条件として、授業構造化の研究推進と学級づくりのくふう。
- 40分授業での1時間1時間密度の濃い授業。
- 子どもも使いこなす教育機器の活用。

○努力目標3. ひとりひとりが生きる生徒指導と学級経営

- 明るく生き生きとした学校づくりは、ひとりひとりを生かす教師によってなされる。授業における拡散的思考も生かさないでは、創造性も育つまい。
- 認めてやる、ほめてやる、励ましてやることの徹底。
 - 可能性のひきだし、何かで学級一、学校一に。
 - 児童会実践部活動（週番制度を廃止して8年）、クラブ活動の育成、学級指導の強化。
 - 質の高い学習集団の育成——学習指導と生徒指導の融合し掲げられる場としての学級づくり。
 - 学校教育目標を達成するための学級における指導計画表（学級経営目標とその分析された内容の月ごと評価）
 - 兄弟学年の活動。入学時から清掃・給食・朝自習など多面的に指導、給食交歓会も和やかに。

科学する心と豊かな心を育てる学習環境

—— 植物園等管理委員会の組織もくふう

清みな自然景観に加えて2haを越す広大な校地は緑で囲まれ、その中に独自の学習環境が構成されている。昭和44年の創立60周年記念事業を中心に数年がかりの奉仕作業を通し、荒地が学習環境としてよみがえった。地域の学校に対する協力の所産であり、汗の結晶である。（環境構成図参照）

○努力目標5. 科学する心と豊かな心を育てる環境の整備

- 主として理科的な環境であり、「探究意欲を育てる環境づくり」として教育科学「理科教育」48年9月号にグラビア等8ページにわたり紹介されている。
- 植物園。面積約2500m²、山野草、水生植物、海浜植物、鳥海山麓樹木、竹林など300種をこす。
 - 岩石園。面積450m²、総合地学学習園で大きな岩石標本を系統的に配列、秋田大学鉱業博物館の指導により造成。
 - 養魚池。豊富な自然湧水を利用した特産庄内金魚

や溪流池など380m²のものから大小10.48 11. 1. N H K テレビで子ども養魚組合の活動が全国放送。

- 栽培観察園。水田、芋畑など広くとっている。
- 小動物飼育舎。ニワトリ・ウサギ・ハトなど。
- サイエンスコーナーなど校舎内随所学習資料展示。
- 民具室。250種類の450点収納、全部学区内からの寄付で2教室ぶっ通して展示、県内有数を誇る。

これらの経営管理には、ちょうど学校保健委員会があるように植物園等管理委員会が組織されて担当している。造成に尽くしてきたPTA・後援会の歴代会長やそれぞれ専門の学区内学識経験者がおり、教職員の転勤による宝の持ち腐れをカバーしている。わたしたちは、これらの環境を「豊かな心」を醸成するためにも役立てている。通路は全部舗装されており、子どもたちは環境に働きかけられて勉強もし、わが校の誇りとして美化清掃に努め、緑や池や岩の間で嬉々として遊び呆ける。

昭和46年ソニー理科教育振興資金の佳作校・47年優秀校（30万円）に選ばれた。去る10月12日山形県理科教育研究大会の小学校会場として研究を公開し、子どもたちのからだをのりだして求める授業とともに、学習環境がすばらしいと好評を博したようである。

地域ぐるみの保健活動

—— 保健安全習慣形成と体力づくり

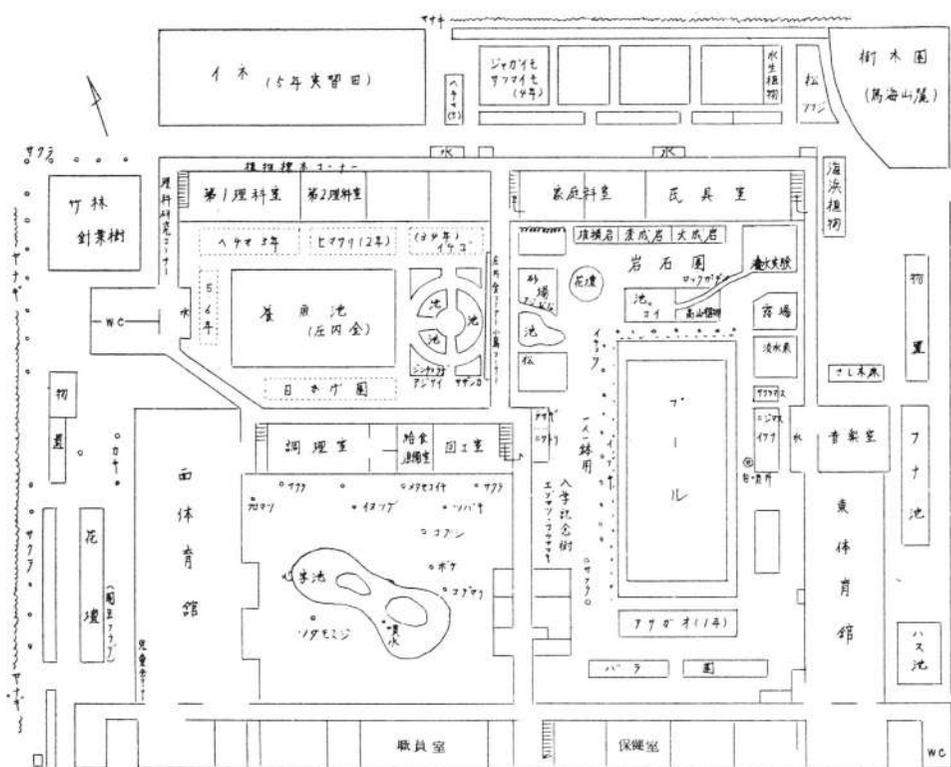
強いからだづくりは、心の健康と鍛練が伴わなければならない。すべての教育活動にこの面からの照射をあてる。明るく生き生きとした学園建設の基盤である。そして、これは人間教育からの発想であり、地域ぐるみの活動でなければ実効があがらない。

その昔、ロスアンゼルスズのオリンピックに、日本の少年たちが水泳で活躍したのに感激して、先代の校医が本校にプールを寄贈された。山形県で2番めのプールであったという。もともとスポーツの盛んな土地柄その伝統は脈々として残り、子どもたちが陸上・水泳・剣道・卓球・スキーなどの大会で優勝したり大活躍をしてくるので支援は強力である。

○努力目標4. くじけない心と強いからだづくり

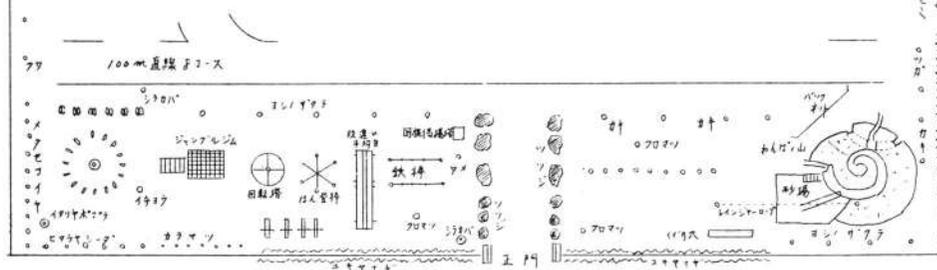
- 体力づくり遊具の整備。教科体育を強化するための施設と、遊びをとおした体力づくり遊具の両面を目下補充し、再構成中。PTA厚生部を中心とした奉仕作業が続く。本年度考朽したバックネットを永久構造に更新、わんぱく山を造成。
- 家庭健康会議の毎月実施。PTA補導部の発議、親子の対話が大きなねらい。話題は暮らし方全般

科学する心・豊かな心を育て、強いからだをつくる環境の構成



環境整備のあゆみ

- 昭40 学級園整備に着手・学校の生物調査開始・学級園に通じる連絡道路舗装開始・校内金魚池開始
- 41 環境整備計画立案・岩石園造成 (34万円・P T A12万・後援会15万・廃品回収7万) 秋田鉱業博物館指導
- 42 民具室整備 (21万・P T A13万・学校備品8万・民具は学区民寄付約250点)・気象観測露場整備
- 43 養魚池設・観察池完成 (33万円・後援会)・地域の生物調査開始・理科を重点研究とする
- 44 創立60周年記念事業として植物園造成 (446坪・島海山系・海浜・教材園・実習田89万円うち植樹13万)
- 45 町教委委嘱理科研究公開發表・理科室改造 (実験室増設)・小動物飼育舎新設・サイエンスコーナー整備
- 46 第二次環境整備計画策定・溪流魚池造成・ソニー理科教育振興資金受賞 (佳作10万円) 健康優良児童1位
- 47 竹林造成・ソニー理科教育振興資金優秀校 (30万円)・健康優良学校県1位 (全日本6位受賞)
- 48 山形県理科教育研究大会の小学校会場として公開發表・おんぼく山 (ソニー30万円) 花壇・飼育舎増設・バックネット (23万円・有志・町・学校) 更新



にも及び、この延長線上にノーテレビタイム運動（長期休業中）が自発的にもりあがった。

- 学校給食野菜の計画栽培。3年前からPTA給食部員を中心に4部落で担当、年間需要（種類や数量）は献立を見通して決定、価格の安定したみずみずしく廃棄分のない良心的な生鮮野菜を供給している。業者納入（一部根菜類）に比べ30%安。
48. 10. 8 NHKテレビ全国ニュースで放送された。
- 自転車免許テストと車検。年3回土曜午後や日曜に校庭でPTA補導部が協力して実施。立会いの警官もきびしいのにびっくり。合格者に許可証を発行、簡単な修理はその場で町内業者が無料サービス。

健康優良学校日本一になって

——あとがきにかえて

受賞後、これまでの実践をわたしたちは謙虚にふり

かえてみている。今まで健康教育をやったこなかったとはいわない。しかし、年期もはいていなければ、とにかくきわめて我流だったにちがいない。県内を見回しても、学校保健や総則体育などで研究委嘱を受けたり、また自主的に地道に研究を積まれたすばらしい実践校が数多くある。これを契機に「真の健康教育とは」と自校のそれを洗い直し、視野を広くしてこれから出発だと考えている。

実地審査のとき、「なんて明るくのびのびした子どもたちだろう。まったく生き生きとして屈託がない」と、5名の中央審査委員の先生方が口々に感懐をもらされた。これを聞いて、わたしは心底喜んだ。日本一になったことよりも、わたしにはこの方がうれしかった。ナルシズムと笑われるかもしれない。

本稿では、狭い意味の健康教育（手前勝手な定義をして恐縮至極）プロパーについて触れることの少なかったことをお許し願ひ、万般のご叱正を切に願ひする次第である。



三原の教育

—新しい世紀を創造するたくましい

子どもの育成——

島根県邑智郡川本町立三原小学校

教頭 大崎 武 晴

1. 本校の概要

今年で創立100年をむかえる三原小学校は、中国一の大河「江川」のほぼ中央部に位置する川本町の中心から約15kmも離れた人口約1400人あまりの山間へき地、標高200mの高原状丘陵触状にのび、棚田式水田が多く、用水溜池を利用し、一戸平均約60アールの水田をもつ農村、近年酪農、養蚕、葉たばこの栽培が盛んになってきたが、時代の流れとはいえ、出稼者の数が逐年増加している今日である。

歴史的には、戦国時代末期、小笠原氏の築城の城跡もあり、江戸時代は大森藩に属し、県道も四方にのび、バスの便はあるがその回数は日に三往復と少なく、交

通は不便である。冬期には、1mの積雪をみる積雪地帯である。だが、春・夏・秋にかけては、公害の苦しみを知らぬ高台の自然の中で、小鳥の声、新緑青葉、紅葉と一幅の名画のなかで生活をしているような自然環境にめぐまれた地である。

○ 児童の実態

児童数 男子51名 女子58名
計 109名

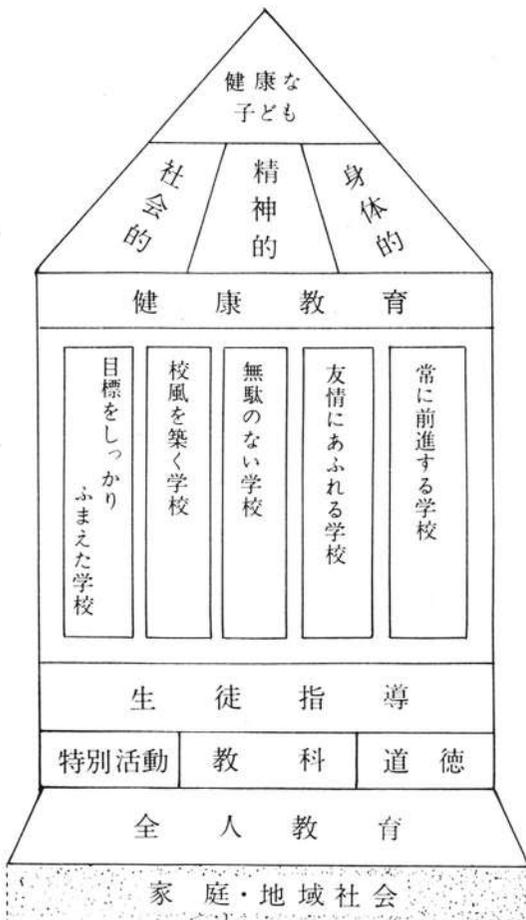
2. 三原教育のねらい

へき地性や、過疎地の問題をかかえた三原の教育は、このきびしい現実に対して、耐え切り開いて進むこと

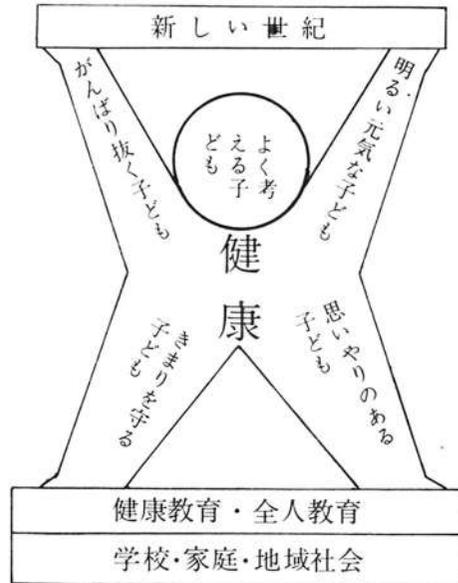
のできるたくましい人間に育てあげることがねらいである。

そのためには、社会のために力かぎり働くことのできる人間になるための基礎づくりをすることである。すなわち、学校集団の中で、すべての子どもの全教育活動が、健康教育を基盤として、無限の可能性を最大限にのばしていこうとする全人教育をおし進めていくことであり、きたるべき21世紀への創造的學校づくりをめざして、子ども達に大きく目を開かせ、正しく見つめさせ、よく思考させ、時にはいたわり、励まし、振るいたたせて、これに適應し、更に改善し、進展させていこうとするたくましい力を、学校と家庭と地域社会の心のかよう協力によって築くのである。

3. めざす学校像



4. めざす児童像



5. めざす教師像

- 三原小学校教師としての誇りと自覚に生きる教師
- 授業をだいにする教師
- 自ら伸び、子どもを伸ばすことにつとめる教師
- 積極的に取り組み、創造する教師
- 親和につとめ、調和と統一のある学校づくりにつとめる教師

6. めざす家庭像

- 明るくたのしい家庭
- みんなでたすけあい、勤労を愛する家庭
- 地域ぐるみへ手をつなぐ家庭
- 子どものしあわせを考え、みんなで話し合える家庭
- 秩序を守り、祖先をうやまう家庭

7. 健康教育をどのように進めたか。

(1) 健康教育に取り組んだわけ

㊦、健康はすべての生活や教育の原動力である。人間教育の一番基本となり、義務教育の最初に行なわれる小学校教育は、計画的組織的に行ない、しっかりした土台をつくってやることであり、これから行なわれるさまざまな教育の実のりを豊かにする充実したものでなければならない。

㊧、わが三原に生きる力を育てる教育であると信じたから

われわれが求める健康教育は、社会や国家が、人類のすべてがねがい求めている教育であり、進歩してとどまることのないこの社会に適應し、更にこれを改善し、進展させていく力をもった人間を育てる教育でなくてはならない。殊に農村であり、へき地であり、過疎地でもある三原の生活は、困難を克服して生き抜いていこうとする力を育てることであり、この道を健康教育に求めたのである。

(2) 健康教育をどのように実践したか。

㉞ どこまでもやり抜く力

三原の教育は、現実をしっかりふまえてきたるべき世紀を築こうとする教育である。すなわち、足らざるを補い、長所をじゅうぶん生かしていこうとする自主自律の活動が大いに望まれる。それは、小学校教育の立場から、たくましく生き抜く力を育てる健康教育を、子どもの身近な活動やことばとして「やり抜く力」をモットーとして取り組んできた。

㉟ 個人の健康と集団としての健康

本校では、児童の個人としての健康はもとより集団としての健康を重視して、健康はすべての生活や教育の原動力であり、人間形成の一番基本としている。

㊱ 児童を核とした総ぐるみの教育

わが校の教育は、健康な実践人として生き抜く力を持つ人間育成であり、そのためには育てなければおかぬ教師の教育愛と、父母の賢明で、限りない親心と、地域社会の住民のあたたかい愛情とが協力し、援助し合って、真に児童を核とした総ぐるみの実践であり、健康教育である。

㊲ 指導機関の協力を得て

健康教育の推進に当って、ぜひ欠くことのできないものは、指導機関の協力援助である学校医・学校歯科医・学校薬剤師をはじめ、保健所・町保健課・警察署・地区保健委員等の諸機関から、いずれも強力な指導と援助を惜しみなく与えてもらっている。

㊳ 意図的創造的な健康教育

健康は、決して自然にできるものではなく、健康は、つくるものであり、育てるものであって、分断された一部分でもなく、生活のすべてを考えるべきものであり、身体と、身体をとりまく諸条件と動きの三者に関係づけられ、生活的統一性をもつべきものであり、調和と統一は、健康教育の大切な要件である。

○ 教育観の確立

教育は、指導、援助、助言、示唆等により、ひとりひとりの児童が、おのおののもつ可能性を最大限に伸長発展させることであり、人間性の育成をめざしながら、望ましい学力を身につけさせることであり、確固たる教育観の上に立って、常に方法の改善を図ることが大切である。

○ 学習指導の改善

学習指導の改善のために、学習指導の問題点を解明し、共通理解を深め、日々の学習指導が望ましい学力の形成となるようにつとめる。

○ 生徒指導の強化

ひとりひとりの児童を現在の生活に適應させ、望ましい社会的・道徳的な資質を身につけさせていく教育活動の中心的な機能として大切な生徒指導をじゅうぶん行なわなければならない。このことは、学習指導と共に、車の両輪の如く、全教育活動を支え、かつ駆動させる大事な役目を担っている。

(3) 重点的に研究実践を重ねている教育活動

㉞ 自主的・創造性を育てる教育活動

○ 効果的な指導

チーム担任制を取り入れて、教科担任制の加味、交換授業、能力別学習班等を適時適切に行なう。

○ 動と静の調整されたくらし

諸活動の前には、静止の時を設けて、静かな中にも張りのある生活へ導くこととし、チャイムで一斉に静止することになっている。

○ 研究発表会

日ごろの家事の手伝いや遊びの中から問題を発見し、自分だけの力で、あるいは友達と力を合わせて、どのように解決していったかを話し合う研究発表の月を設けている。

○ 学級経営

学級づくりの出発点は学級づくりであり、帰着点でもある。日々の教育実践の結集する場は教室である。学級では、係り活動や学級会活動を活発にし、ひとり一役制、特能の発見、協力援助を重視し、特に個性的な学級づくりにつとめている。

㉟ 体力や気力づくりに励む活動

○ 無形文化財の伝承

古くからこの土地に伝えられている神楽や田植えばやしをアレンジして、リズム運動や行進曲とし、

楽しいふんいきの中で、体力や気力づくりをしている。

○ 薄着のくらし

朝登校したら、4月から10月までの間は全員が運動服に着替えて、総ての学習に参加させ、常に身軽な行動ができるようにし、また、日照の時間の少ない山陰のこの子ども達に、日光と冷気にも親しませることにしている。

(以下紙面の都合上省略する)

最後に健康優良学校は、自然にできるものではなく、意図的に作るべきものであると提言された方がありますが、過去3回、日本一健康優良学校に在職し、保健主

事として、健康教育に全力投球した者のひとりとして、強く共感するものである。

ご 案 内

昭和48年度 日本一健康優良学校(小規模校) 全日本人健康教育発表大会

1. 期 日 昭和49年6月28日(金)
2. 会 場 島根県邑智郡川本町立三原小学校
3. 研究主題 「新しい世紀を創造する
たくましい子どもの育成」



鈴木浩之君の 健康優良児日本一に思う

清水市立清水小学校長

野 村 壽

(1) 浩之君の健康優良児日本一をたたえる

浩之君が、あらゆる面で優秀な児童であることは承知していたものの、健康優良児として推せんをした私も、彼が県一になることすら予想していなかったので、日本一になったと知らされたときは、正直なところ夢ではないかと驚いたし、その喜びは大きかった。私の喜びは、彼の表彰が、本校の過去の健康教育の成果と考えてのことであったが、浩之君の今日をあらしめた最大の要因は、何といっても彼の家庭教育にあったのであって、学校教育は、その一部を支えたに過ぎないのである。浩之君の日本一の体と心は、彼の生誕から今日までの行き届いた父母の養育への配慮と労苦の賜であることに疑う余地はない。御両親の喜びは推察に余りあるものがある。今日までの御両親の御苦労と、浩之君自身の努力に対して惜しみない賛辞を捧げ祝意を表したいと思う。

浩之君、母親と同行して、日本一表彰の報告を静岡県知事と清水市長にした折に、竹山県知事は、席を立てて出迎えられて、「静岡県の名誉です。今後も努力

して立派に成人しなさい」と励まされ、また佐藤清水市長は、「公害を心配している清水市から健康優良児日本一が出たことは本当に嬉しい。今後がんばりなさい」と心から喜ばれた。浩之君がこの表彰を重荷に感じることなく、自信をもって、その珠玉の素質に一層の磨きをかけ、御両親をはじめ、私ども周囲の期待どおりに立派に成人されることを期待してやまない。

(2) 浩之君が育った本校学区の概況

本校は、昭和49年5月7日に開校百周年を迎える歴史と伝統をもった学校である。学区は、清水港開港以前から波止場として発達した、清水次郎長ゆかりの清水町がその中心であって、現在もその由来を示す「次郎長通り」「波止場(港町)通り」と呼ばれる商店街がその中心である。学区には、清水港の発展と共にある、港湾関係の官庁をはじめ、多数の交易商社や倉庫が立ち並び、水産加工関係、製缶・造船・製材・合板・鉄工等の会社工場が多数所在する。そのため、近来大気など環境の汚染も心配され、健康上からは決してよい環境とは言えない学区である。しかし、百年の歴

史と伝統に根ざした本校教育に寄せる地域住民の関心は極めて大きく、その深い理解と協力によって、本校は多年にわたって多大の教育実績を挙げることができた。

(3) 本校の健康教育

本校の過去の教育の実績の中から、健康教育に関するものをその表彰歴によって挙げてみると次のようなものがある。

- 昭和38年度から48年度までの11カ年間連続して
……優良歯学校表彰 ……日本学校歯科医会
その内 昭和42年度……5カ年連続歯牙優良校表彰
額受賞
昭和47年度……10カ年連続歯牙優良校表彰
楯受賞
○昭和42年10月18日……学校給食の運営指導表彰
……文部大臣



健康優良児日本一 鈴木浩之君

——喜びと望み——

担任 小野和子

健康優良児、全国男子10人の仲間にはいいよいよ東京への出発の朝。

「先生は県一、また10人の仲間に入れたことだけですが、素晴らしいと思っています。日本一は望みません。かたくならないうで、ふだんのままでいいから、がんばってきてね。」

と、本人に負担をかけないようにと、東京へ送り出してからは、おちつかず、内定のあったその日も、校門を出たのは6時少し前、帰宅すると早々

「今学校から電話で、鈴木君が日本一になった。」

との話、何か、からかわれているのかしらと思ひながら、たしかめの電話を入れて「やっぱり本当だった。」私の夢が実現したんだと、つくづく思ったのでした。

「日本一。」これは4年前、清水小に転任した時、子どもたちに話した言葉でした。大きな目あてであった日本一が、こんなにも早くしかも私の級の中でなろうとは、考えてもいなかっただけに嬉しさでいっぱいでした。

- 昭和43年11月3日……全日本健康優良学校表彰
……朝日新聞社
○昭和44年11月3日……全日本健康優良学校表彰
……朝日新聞社
○昭和45年10月27日……学校保健の普及向上表彰
……文部大臣

以上のような全国表彰歴がある他に、静岡県教育委員会、県市の学校保健会の表彰を数多く受けている。

なお、昭和45年度、46年度の2カ年にわたって、学校保健の県の研究指定校の委嘱を受けて「全人教育をめざした健康教育」をテーマとした研究の成果を発表した。このたびの浩之君の健康優良児日本一の表彰も、本校の過去の健康教育の成果のひとつとして喜びたい。そして、この表彰を新たな契機として、本校の全人教育、健康教育の一層の推進を期したいと考える。

朝日講堂で受けた、表彰式の感激は、心に残る大きな喜びの一つです。

3年から6年までの4年間を担任した私、5年で編成替えはあったものの、そのつながりは深いものでした。

毎日を共に生活しただけに、あまりにも身近すぎて、日本一などとは想像もしなかったのですが、静かにふりかえてみると、やはり日本一に値する子であったと思うのです。健康優良児に向かって特別の努力とか指導はしなかったのですが、本人の毎日の努力の積み重ねと、まわりの環境(家庭・学校)が自然に育てていったものと思います。

3、4年生のころ学校では、全人教育を旨とした健康教育をテーマに研究が進められ、体力づくりに、また健康の基礎となる、正しい姿勢、心の健康その他いろいろの習慣形成など幅広い範囲で、教師児童ともどもに励んだ時代でした。

5年生になってからは、学年で早朝体育に切り替え、現在も続いておりますが、7時半から運動場をまわる

マラソンが始まったのです。冬の1月2月に7時半からのかけ足は楽なことではありませんが、そこをがんばりとおしたのです。学習の面でも運動の面でも、注意しなくても自律的に進めていける子でした。ここまで成長してきた何よりもの原因は「何事にも夢中になってとりくむ」ことができたからだとは私は信じます。

学習面では、論理的に思考する力、正しい理解力と記憶力など、すばらしい能力がそなわっているためか、特別の努力はしないようでしたが、やるべきことは能率的にきちんと処理していきました。

体育面では、4年生ころから目立って技能が伸びたと思います。水泳・ボール・陸上・器機……何事にも真剣にとりくみ、優れた記録を出し、負けることのきらいな性格が、根気強さを育てていったのだと思います。

現在は、学校・学級のリーダー的立場にあり、代表委員会の議長をつとめ、全校にあたたかい目を向け、物事に対しては、目あてと見通しをもって積極的にとりくんでおります。

心身共に健康で、日本一の輝かしい栄誉を戴いたことは本当にすばらしいことです。これは、これからの人間として健康に生きぬく出発点と考えてよいと思います。

この影には、これまでに育ててくださった御両親の深い愛情と、日本一にふさわしい家庭があったからです。またいろいろの面で細かく御指導下さった多くの先生方、それに、共に支えあい運動して鍛えあった友だちのあったことを忘れてはならないと思います。決して忘れることのない浩之君だと思っています。

小学校という一つの節を卒業して、次の節へ進む浩之くん。これからの生活は今まで以上に厳しいと思います。どんな時でも、友だちには愛情をもって接し、又自分にはきびしさを忘れず、一つ一つの山をのりこえていってほしいと思います。苦しみをのりこえたと次には新しい未来が開け希望が湧いてくるものです。

貴方はだれにも負けない「健康・体力」という宝物を持っています。この宝物を大切に育てていってほしいのです。健康に勝るものはないほど、すばらしいものなのでから。

先生の好きな言葉、健康・誠実・愛情・正義・決断・勇気・実行・責任・忍耐も、ときどき思いおこしてください。

心豊かな、よい日本人、社会人に成長することを心

より願いたします。



浩之を育てて

母 鈴木弘子

6年生になり、5月の半ば頃であっただろうか、学校から帰ってきて、

「お母さん、学校で、健康優良児に、僕を推薦してくれるんだってさ。」

と、意図もなげに言うのです。

「お父さん、浩之が、健康優良児だってよ。」

と、なにか面映ゆい気持でしたが

「あら、よかったわね。他にいっぱい、いい子がいるのね。浩之、小学校生活の締めくくりのためにも、一年間、悔いを残さないように、頑張るのね。」

と話したものでした。

低学年の頃は、忘れ物ばかりしていた子、「お母さんは、絶対 届けないわよ！」と、又、学校からの「歯みがき、うがいの習慣づけ」で、表に記入するのが、なかなか実行出来ず、思いあぐねた末、「僕はやらないからいりません。と先生に返していらっしやい。先生の言う事をきけない子は学校へ行かなくても、いいんだよ！」と言われやっとなるようになった子。

学校推薦だって、この時点で、我が子の成長を喜んだのでした。

毎年11月3日の新聞で、立派なお子さんを拝見して、我が子に、爪の垢でも………と、思っていたのでしたから。

9月の県の審査、そして県一、10月の特選児童の発

表と狐につままれた様な気持で、いっぱいでした。「浩之、自分の記録に挑戦するつもりでやりなさい。全国からのお友達の事は、気にしないでね。」と中央審査にのぞみました。宿舎に集まった、すばらしい全国の特選児童を見て、びっくりしてしまいました。我が子より遙るかに、大きく、立派な子供さん、その中で、浩之が日本一に選ばれました。驚きで胸がはりさける思いでした。3年の時から、受持って頂いた小野先生、保健の先生、校長先生、諸先生、ありがとうございました。そして、運動能力テストの相手をしてくれたクラスのお友達、少年団のみなさん、本当にありがとうございました。感謝の気持でいっぱいです。

生れた時、体重3750グラム、身長53センチと大きく母乳もたっぷりあり、離乳食もよく食べて、すくすく大きく育ってくれました。

3年保育に入ってから、食事の好き嫌いは許さない事、睡眠時間は十分に取る事を習慣づけました。体格は親ゆずりの体質もあって、丸々として、肥満児にならないようにと、縄飛びをしたり、ドッチボール・バレーボール、夏には、プール通いと、家族でよく遊

びました。

でも、4年生の頃から、学校・町内の行事で、一年中ソフトボール大会・水泳大会・運動会・陸上記録会・マラソン大会等、毎日暗くなるまでの練習で、体も引締ってきました。

5年生になって、学校の体力づくりで早朝運動が始まり、毎朝7時半には学校に着き、グラウンドを7周半マラソンをする事、又、自分が好きで入団した軟式野球団、日曜日もお弁当持参で出かけます。一年中休みなしでした。スポーツで、自分の精神と体を鍛えるのが、目的であることを、親子で話合いました。

学校の児童会執行部議長、野球団のキャプテン、町内の子供会体育部長と、忙しい日々、それに負けて音をあげることもなく、残り少ない、小学校生活を過しています。

又、栄えある日本一の表彰を誇る事もなく過している我が子を見て安心しているこの頃です。この栄誉をまた一つの門出として、自分により厳しく、自分をより成長させ、心身共に立派な人間になって、社会へ巣立たせたいと思います。校長先生、諸先生方、これからもよろしく、御指導の程お願いいたします。



日本一になって

鈴木浩之

11月3日、ぼくは日本一の表彰を受けました。それまでにはいろいろなことがありました。五月のなかばごろ、先生が、「鈴木君、君がこの学校の健康優良児に推せんされましたよ。だから、けんすいと、走り幅飛び、50メートル走、ソフトボール投げの四種目を練習しておきなさい。」といわれました。

初めのころは、学校の推せんの健康優良児ということがあまりよく理解できなかったので、練習もあまりまじめにやりませんでした。しかし、友だちが熱心につきあってくれるので、「本人がこんなでは、健康優良児の資格はない。もっとしっかりやらなくては」と

思い、それからは、まじめにやるようになり、記録も向上しました。

そして9月21日に県下1位に選ばれて、ふだんの生活態度も、何ごとにしても、いっそう心をひきしめていかななくてはならなくなりました。

10月の新聞発表の全県特選児童に選ばれたときは、ぼくも両親もびっくりしてしまいました。

そして東京に行くその日、教頭先生が「鈴木君、あまりきんちょうしないで、みんな君と同じ立場にあるのだからあがらないで、おちついてがんばってきなさい。」といわれました。

体力検査などのいろいろな検査には、自分のベスト

をつくしました。

そして、日本一の発表。

ぼくは、うれしさと、学校の先生方、ここまで育ててくれた父と母そして、運動能力テストの練習をつきあってくれた友だち、勉強、スポーツのよきライバル

のみなさんに対し、感謝の気持ちでいっぱいです。

ほんとうにありがとうございました。

これからは、この気持ちを忘れずに、日本一をほこりに思い、1日1日を1歩1歩ふみしめ、いつまでも日本一であるために、努力したいと思います。



「健康優良児日本一」の背景

仙台市立原町小学校校長

鎌 田 豪

1. わが学区

今は新仙台港、塩釜港・松島・石巻を結ぶ国道45号線の走る東方発展の拠点としての商工地帯になって、田園地帯だった昔のおもかげは何もない。しかも「古きよき時代の人人」も多く、小学校は今も「おらが学校」である。

2. おらが学校

(1) 明治6年4月開校、昭和48年4月28日創立百周年「匂いゆかしき宮城野の、萩をしるしの旗のもと…」校歌の初めである。

(2) 児童数1541名、学級数38

(3) 経営方針「力と美と和の学校」

(4) 教育目標

○がまん強くがんばる子ども

○ひとにめいわくかけない子ども

○礼儀作法の正しい子ども

学校、地域、PTAと三者一体。だれもが百年の歴史の重さを自覚しているのは、ただ時の長さだけではなさそうである。

3. 健康教育20年の栄光

保健・体育・給食・交通安全・環境衛生・環境緑化・花いっぱい運動等、健康教育20年の累積、その間、文部大臣賞、県・市・関係団体からの表彰は21回に及んでいる、また本年度は昨年度同様、NHK音楽コンクール県第2位、作曲コンクール6年女、県第1位。

4. その底辺

(1) 本校PTA家庭バレーボールチーム(女子)は高名。特に本年度は三冠王を目指した。すなわち市のブロック大会、全市大会で念願の春夏秋と3回に連続優勝、大いに気をはいた。これは学校と一体になってのPTA体育活動の一例であるが、こうしたことがバックとなり底辺となって、子どもたちへの生きた教材として何よりの励ましと誇りをもたらしている。もちろん単なる技術でなくて、努力そのものである。

(2) 本年度の仙台市小学校体育大会(54校)においても新記録二つを含む上位入賞続出、自他ともに「陸の王者」の伝統をうけついでいる。それは地域ぐるみの総合であり、協力であり、努力なのである。

5. 健康優良児

昭和42年度、6年男 菅野 仁喜、県一位
全国特選

昭和45年度、6年女 菱沼ひとみ、県一位

昭和48年度、6年男 峰岸 穂、県一位

6年女 門井 梨子、県一位

日本一

本年度、同一校から男女とも県一位が出たのは本県で初めて。このたび日本一が出たことも決して偶然ではないような気がする。やはり「継続は力」なのである。

6. エピソード

昭和48年10月29日、月曜日、朝会。あす門井さんが全国審査に上京するというので「励ます会」を開いた。

校長の激励のことは、本人のあいさつ、子どもたちの拍手といった簡素な次第だった。門井さんのあいさつの終わりに「日本一になるよう、がんばってきます」との結びの言葉が、気にかかる印象として残った。朝会が終わって二、三人の先生と「あの子、あんなに自信があるのだろうか。日本一なんて」「すごく自信過剰だな」「希望が大きいと失望も大きいというがな」とささやいたことだった。

11月1日、午後3時40分、東京から「日本一」との電話がとびこんだ。「あの子のあいさつがほんとなったな。まさにまさ夢だ」「やーや言ったとおりになったな」とみんなでびっくりした。みんなで喜んだ。目頭が熱くなってきた。校庭の子どもたちは「ばんざーい」と何度もこおどりしていた。そして私たちのささやきが、しだいに、はずかしく感じられてきたのであった。



梨子さん ほんとうに おめでとう

担任 渡辺 健夫

11月1日、梨子さんと共に上京していた遠藤先生から学校に、「健康優良児日本一に決定」という電話がはいり、その朗報はすぐに校長先生から校内放送を通じて全校に伝えられました。先生方はもちろんのこと、まだ校庭や教室に残っていた子どもたちもみんな、お互いに抱きあい、とびあがって我がことのように喜びました。

梨子さん、ほんとうにおめでとう。

「日本一」それはあなたの人生の一ページにとってひとときわ光り輝く記念塔であります。それも人として最もさいわいな、心身ともに健康であることの栄誉です。偶然に手に入れた宝ではありません。4年生のころから、今日のあることをめざして一心に努力した結果であることに、私は敬服の念すら感じます。

暑い日も寒い日も毎日毎日朝早くに起きておとうさんや妹と一緒にマラソン・体操とトレーニングに励んでからの登校。学校では児童会会長、学級委員、地区子ども会会長として活躍し、先生方や友だちからの信望も厚く、1年生からは「おねえちゃん」としたわれてきました。

放課後、運動着に着がえるとすぐにグラウンドにとび

出し、体育主任の遠藤先生とともに陸上運動・水泳・バスケットボールと汗を流していました。遠藤先生も情熱を傾けて指導に打ち込んでおりましたが、その情熱にこたえる梨子さんのひたむきな姿勢と根性を、私はいっばいのたのもしきで見つめてきたのです。

日本一の表彰楯を手にして学校へもどってきた日、全校の友だちが、そしてクラスの友だちが祝賀の会を開いてくれました。その席で「私は今までの私とかわりません。ごくあたりまえの子どもです」といいきったことばを私は忘れることができません。そして今、「私はまた何かに向って努力を始めたい」と作文に記している梨子さんに、心から声援をおくります。



テスト風景

矢田哲也氏撮影



努力のつみかさね・梨子

体育主任

遠藤 寿 秀

45年、当時3年を担任していた私の学級に父親に連れられた梨子が転入してきた。学級には、今回、仲よく宮城県1位になった峰岸がいた。

次の日、子どもたちの間では、「転校して来た子、足が速そうね。」というようなことがささやかれ始めた。そして、ついに足自慢の子どもたちとの決戦、結果は、私の記憶では「ドッコイ、ドッコイ」。折も折、この年の6年生から健康優良児女子の部で宮城県一が出た。

さっそく2人をよんで話した。「どうだ、君たちは100年目の6年生、何か目標を持とう、やってみないか」と、

「やれるだけやってみます。」返事はすぐにはね返ってきた。

すでに家族ぐるみの体力づくりで鍛えられていた身体は、少々のハードトレーニングにも耐えられるものを持っていた。正課時はもちろん、早朝、放課後、余暇を利用しての心身両面のトレーニング、健康管理、栄養補給。家族の方々の苦労は大変だったと思う。しかし、5年生からの担任の渡辺先生をはじめ学校も友人も協力は惜しまなかった。

課題を出せば、トレーナーの父親、栄養士の母親と相談し納得できるまで実行しようとするひたむきな姿に周囲は心うたれた。5・6年生対象の、水泳・陸上・バスケットの各教室にも4年生の時から参加した。

そして、6年生、仙台市の審査直前に練習中50mに7秒4という記録を出したが、本番では、結局7秒6、走巾跳に4m35、ソフトボールに48m、けんすい29秒という成績で、同時審査の中学生をも圧倒し周囲を驚かせた。

直後に開かれた市民陸上選手権に出場し、400mに59秒9で優勝、しかし期待された100mで意外に振るわず15秒3で2位に終わった。

これを機会に、走法の切りかえを考え、それまでのストライド走法から、地面をたたきつけるピッチ走法に変えるべく努力した。幸い経過は順調だった。一方10月に催される市小学校体育大会に備えて80mHの練習も始めた。

9月の県審査では、身体のコンドションが最悪の時と重なり、50m7秒8、走巾跳4m22、ソフトボール48mを出しながら、わずかにファールで41mどまり、けんすいだけは記録がのびて32秒という成績で宮城県一位、同時に男子の部でも峰岸が他を圧倒して一位、県審査始まって以来の大記録を打ち立てた。

そして中央審査、オリエンテーションで50m走の測定のないことを聞いて本人はもちろん付き添った私も少なからずショックを受けた。しかし、実飛距離ながら走巾跳に4m58という自己最高の記録を出し十分にカバーできた。

「日本一、宮城県代表、門井梨子さん、その瞬間「バンザイ!!」、そして泣きくずれた梨子を見て、そのバンザイと涙は、日本一になれた結果に対してのバンザイよりも、それまで目標に向かって、ひたむきに努力し続けた過程へのバンザイであり涙であったと思う。

表彰式の答辞で「私は、今日本一です」「しかし、明日も日本一だとはかぎりません、常に努力を続けなければ……」梨子の姿勢を表わすに十分な言葉だったと思う。

両親から授かった才能と努力の結晶、そして、すでに次の目標に向かってスタートしている梨子を見て、今後も期待十分である。

おわりに家族ぐるみの地味な努力の積みかさねに敬意を表し、協力して下さった先生方、多くの友人に一関係者として心から感謝します。

〈努力の成果〉

○5年

市小水泳記録会女子150m R 5位
 市民総体(陸上)混合 400m R 優勝(大会新) 59秒9
 ○6年
 市民陸上選手権女子 400m R 優勝(大会新) 59秒9
 “ 女子 100m 2位 15秒3
 区小水泳記録会女子50m自 5位 41秒3
 市小体育大会 女子80m H. 優勝(大会新) 13秒3
 市民総体(陸上)混合 400m R 優勝 56秒7
 市民バスケット祭りに出場 勝



ドンブリ会議の中から

父 門 井 利 介

「楽しみは、妻子親しくうち集い、頭そろえて物を食うとき」……これが、我が家の好きな言葉です。とにかく何を節約しても食事だけは、特に夕食は家族で楽しんできました。夕食が例え九時になっても家族4人が揃うまで待つことに全く抵抗を感じないほどです。食後1時間ほどの雑談も、子供の成長につれて意義をもってきました。この雑談は、家族ぐるみのいろいろな行動を生み出しました。

家族でいろいろな計画をするときの話し合いを、我が家では「ドンブリ会議」と呼んでいます。「山にでも登るか」というドンブリ会議は、富士登山に発展し、梨子が二年生の時で、八合目でダウンしてしまいました。しかし翌年には谷川岳の頂点に立つことができました。妹の吾子は、谷川岳の三角点に一番乗りしたとき、頂点にいた数人の若者に拍手で迎えられ、喜びは深い思い出になっているようです。

低学年の2人の子が高い山に登れた健康も、幼児からの早朝マラソンに因るものが多かったようです。マラソンといっても遊びの要素を多くもったものです。工事中の道路に盛られた砂地で相撲をとった当時、急逝した横綱玉の海が誕生した頃で懐しい記憶となっています。水辺を走るとき、おたまじゃくしをすくいながら石投げもしました。運動会後の白線が残る高校の校庭で、朝露にべとつく石灰を踏みながら嬉々として走りまわりました。

その子供たちが、健康教育を重視する学校に学び、体育指導に深い関心を示される先生方に恵まれ、仙台市のPTA各種競技会に活躍し、大きな足跡を残される地域の人々に見守られて、この度の栄誉を受けたことは、我が家の終生の誇りと思っています。そしてこれを基盤にして、次のスタートラインに立った自覚を、朝いまだ早い宮城野を走りながら、食後のドンブリ会議の中で何度か話し合っております。

(昭和49年1月)

12年をふりかえって

門 井 梨 子

「宮城県・門井梨子さん。」

ばんざあい。ついに日本一になったんだ。よろこびの涙と共に、今までの私が思い出される。

小さい頃から1日の日課の中には必ず、マラソンがあった。電柱までの約50メートルぐらいを、行ったり来たりから初まり、砂沼という沼まで行き、体そうをしたり、父や妹とまだ砂だらけの道路工事現場ですもうをとったりして、朝の楽しいひとときを過ごした。

そのころは、ただからだをきたえるためのトレーニングだった。

それから何か月が過ぎた3年生の12月、父の仕事の事情で、仙台に転校した。そしてこの原町小学校での初めての朝会の時、健康優良児県第1位の表彰式があった。その時から私は「こんなこともあるんだな」と考えながら、なれない仙台での日々を過ごした。

4年生の時だったか、担任の遠藤先生から「健康優良児、というものがあります。」と、県1位になった峰岸君といっしょにはっきりと聞いた。その日からのトレーニングは前とはちがう、力の入ったトレーニングになった。冬の朝、まだ星が美しくキラキラ輝いている5時30分ごろ起きて、けんすい・ホールスロー・マラソン・巾飛びなどを、雪がまい、風の吹く中でがんばった。手がおおりそうになり、とてもつらかった。

が、きのうよりきょう、きょうよりあした、とがんばった。

私は、小さい頃からやってきた、朝のトレーニング。この1日1日の積み重ねが、このたび日本一になった大きな原因の一つだと思う。

もう一つ、私は父母、先生方、友達、あたたかいご協力によるものだと思う。私にすばらしいかんきょうをあたえてくれた父母。放課後、わざわざ私のためにおいそがしいところを残って指導して下さった先生方。また、友達は放課後のトレーニングにつき合ってくれ、たえず私をばけましてくれた。私ひとりの力ではないということも忘れてはならない。

私はこれからもずっとスポーツを続け、日本一にまたいろいろなことを積み重ねていき、将来、世の中のためになる人になりたい。



「特選健康優良児」の誕生を喜ぶ

岡山県倉敷市立玉島小学校長

重見鉄之輔

昨年11月3日、本校渡辺睦浩君が全国特選健康優良児として晴れの表彰を受けた。学校にとって全国特選児が出たことははじめてのことだけに職員やPTA一同の喜びも大きく、子どもたちも自分たちの仲間から全国に名が出る友だちの出たことに感激していた。

渡辺君が昨年9月県審査で男子県1位になって以来、つぎは全国代表にという大きな願いをもっていた。彼の体格、運動能力、学力、性格からしてあるいは日本一も夢ではないとも思えた。

表彰式の前日、中央審査会に臨んでいた渡辺君のお母さんから、残念ながら日本一にはなれなかったが、本人はいたって元気いっばいにやっている旨の連絡があった。

1. 玉島小学校

本校は明治41年4月の創立で、現在66年の歴史をもっている。一般の学校がすでに創立100周年を迎えて

いるのに比べればいくらか新しい学校と言えなくもない。

沿革史によれば、創立当時2つの尋常小学校の一つの高等小学校を廃合して新設の学校を創立している。当時の児童数1,250人、27学級、職員32人であり、現在の児童数1,095人、普通学級27学級と比較してみても、当時としては大規模校と言えよう。

創立以来、地区の人々が学校へよせる理解・協力・期待は実に大きかった。いわば玉島地区の中心校的性格が強いことを感じる。

元来玉島という町は、江戸時代から明治の中期にかけて港町としてめざましい発達をとげ繁栄してきたところであるが、鉄道をはじめ陸上交通の発達と海上交通機関の大型化により、現在は港の町としての機能は大きく後退し、商業の町として変わってきたところである。

倉敷市全体が古い文化の町と水島地区に見るような新しい工業の町の二つの面をもっていると様々に、玉

島地区もまた古い港町のなごりと近代商業都市の様相の二面をもつと言えよう。

前記のように、現在、児童数 1,095人、特殊学級を含め学級数30学級、職員数39人が、創立以来の理想をめざして、教育実践にとりくんでいる。

学校として特別な特色というものはないが、望ましい小学校の教育はどうあればよいか、これが私たちの願いであり創立以来の理想とも受けとっている。

2. 本校教育の方針

現在の学習指導要領の骨子にもなっているが、教育は子どもの人間形成のための基礎でなければならない。「知徳体の調和的発達を図り、心身ともに健全な子どもを育てる」

今回の全国特選児について考えても、同様であり、知徳体いわゆる心身とも健全な児童の具体的な像としていきたい。

(1) 教育の目標

- 自主性・創造性に富み個性豊かな子ども
- 豊かな情操と強い意志をもち進歩向上する子ども
- 集団の一員としての自覚をもち協調的で社会性のある子ども
- たくましく健やかな身体をもち誠実勤勉で実践力のある子ども

(2) 教育指導の重点

- 助け合い、はげましい、美しい学校をつくる子ども
- ねばり強く、めあてに向かって進んでいく子ども
- 進んで、みんなのためにまじめに働く子ども
- 健康を考え、体をきたえる子ども

(3) 本年度指導の努力点

- 集団と個の育成をめざし、望ましい能力態度を育てる学級経営の研究
- 自主的な実践態度を育てる特別活動、生活指導の推進
- 体力の増進と健康安全の習慣をめざす健康安全教育の徹底
- 豊かな情操と生活にうるおいをもたせる学校環境の整備充実

3. 健康教育

健康教育については、子どもたちの全生活を通じて行なわなければならない。特定の領域や特定の場によって考えるものではない。知徳体の調和的発達をめざしていく教育全般の問題として多面的にとらえるべきだと思っている。

私の学校の教育目標や努力点にもそうした意図をもった項目をかかっているが、この表現の適否は別として、大きくは学校経営、さらに学級経営なり、生活指導なりに一貫した考え方があり、教職員全体の共通理解と意図的な努力が必要である。

私の学校は地域も小都市ながら都市的な傾向をもっているため児童の身体状況もいわゆる都市型に近い。なお学校が国道に面しているために安全教育に対する要請が強い。

教科・道徳・特別活動三領域の中に適切に位置づけ実践への具体的方策をたえず検討改善していくことがたいせつである。昭和45年11月、本校が市指定の体育研究会を開催したが、研究主題として「児童の体育活動をさかんにするには」（総則第3の体育の主旨をいかして）を取りあげている。

主として全校遊びの時間における遊び、さらに日常生活全般で、子どもたちの遊びを体育活動助長の方向で検討し、習慣化を図り、心身の発達を意図したものであった。以来いくらか変遷はあったが、学校全体としての体育活動の助長に大きく資するところがあったと思う。

(1) 体育行事年間計画

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|-----|--------|-----------|-------|-------|---|-------|-------|-----------------|--------|------------|-----------|--------|
| 行事 | バンドテスト | | | ラジオ体操 | | | ダンス | | バンドテスト | | | |
| 活動 | | | 水 | | | 泳 | | | なわとび | | かけ足 | |
| 大会 | 春季体育会 | ハンドテニス競技会 | ブルー開き | | | 水泳記録会 | 学年別遊び | ブル納め (水上体育会) | 秋季運動会 | 体力・スポーツテスト | ハンドテニス競技会 | 球技会 |
| その他 | | | | | | | | | なわとび検定 | | | マラソン大会 |



校内水上体育会風景

年間行事の大要であるが、本校で特に留意している点は夏季の水上運動から秋季の陸上運動への移行期の身体活動の順応、冬夏マラソン大会を中心とした持久走への段階的指導などで、体育行動の時期、移行期間の設定など慎重を期している。



校内マラソン風景

(2) 学級指導と保健安全

本年度の研究として「学級指導の計画と指導法」をとりあげている。学級指導の時間は新しく、まだ効果をじゅうぶんあげるまでにはいたっていないが、積極的に児童の健康や安全について指導するためには有効な機会となっている。給食指導を含めて、保健・安全に関する内容など健康教育のいわば消極面に該当するものが多い。従来の学級経営として領域外に位置づけていた内容もあり、今後とも重視していきたい。

(3) 健康観察カード

養護教諭、保健主事を中心に、朝の会で実施する健康観察カードのまとめや検討、対策の樹立を行なっている。日常的なことで有効な活用のためには多大な努力を要することであるが、児童の観察を通して、健康

の維持管理などきわめて重要な意義をもっている。本校ではもっともたいせつな一日のスタートである。

(4) 環境の整備緑化と情操教育

環境は人をつくると言われるように、その整備は学校・PTAあげての課題である。国道からの騒音防止の高木の植樹・庭園・運動場に芝生をうえるなど、健康と情操のため計画的な整備を実施中。

4. 特選児紹介

特選児渡辺睦浩君は、誰が見ても心身ともにすぐれた児童であることがわかる。体格は群を抜き、運動能力も同様、性格もきわめて円満、協力的であり学力優秀であるため、級友たちは尊敬と親愛の情をこめて「ジャンボ」の愛称をおくっている。全く、彼はジャンボの名にふさわしく心身ともに大きく、こまやかでのびのびと育っている。

彼の家族は、高校の兄と父母の4人であるが、父は会社幹部、母は家庭にあり、円満な恵まれた家庭である。幼時から健康で特別の苦労はしなかったとお母さんの話であるが、両親をはじめ周囲の温い愛情と深い理解のあったことが察しられる。

| 身長 | 体重 | 胸囲 | 座高 |
|---------|--------|--------|--------|
| 167.0cm | 55.3kg | 78.5cm | 90.3cm |

| 50メートル走 | 走幅とび | ソフトボール投げ | けんすい |
|---------|-------|----------|------|
| 7.5秒 | 446cm | 60m | 10回 |

本校から特選児童が誕生したことは、学校はもとより地区民一同の喜びであり、子どもたちにも大きなはげみがあったことはうれしいかぎりである。全国表彰のあと、市長より特別表彰があり、市当局からの祝福も受けた。

公害の町と人言う倉敷に

全国特選健康優良児あり

(市長より)

昭和48年度健康優良学校・児童

| 健康優良学校 | | 健康優良児童 | |
|--------|--|--|--|
| 十二学級以上 | 日本一 特選 山形県飽海郡遊佐町立遊佐小学校 熊本県熊本市立城東小学校 岡山県赤磐郡瀬戸町立江西小学校 北海道旭川市立東五条小学校 茨城県土浦市立東小学校 | 男 | 日本一 特選 鈴木浩之 石垣雅章 太田佳行 押川祐士 中島登 石原俊治 渡辺陸浩 大林克司 立野滋也 浦添為典 静岡県清水市立清水小学校 静岡県釜石市立釜石小学校 栃木県栃木市立栃木第二小学校 富山県富山市立西田地方小学校 石川県鹿西町立能登部小学校 島根県平田市立平田小学校 岡山県倉敷市立玉島小学校 香川県高松市立十河小学校 山口県平生町立平生小学校 沖縄県私立海星小学校 |
| | 女子 | 日本一 特選 島根県邑智郡川本町立三原小学校 青森県三戸郡三戸町立杉沢小学校 鹿児島県肝属郡田代町立大原小学校 鳥取県東伯郡関金町立山守小学校 香川県坂出市立松山小学校 | 女子 |
| 十一学級以下 | 日本一 特選 島根県邑智郡川本町立三原小学校 青森県三戸郡三戸町立杉沢小学校 鹿児島県肝属郡田代町立大原小学校 鳥取県東伯郡関金町立山守小学校 香川県坂出市立松山小学校 | 女子 | 日本一 特選 門井梨子 伊藤朱実 水戸美佐 藤原奈美 大地隆子 小杉智恵子 高橋美千子 拝藤さとみ 大平園子 梶原由紀子 宮城県仙台市立原町小学校 岩手県釜石市立大松小学校 山形県国立山形大学教育学部附属小学校 福島県会津坂下町立坂下小学校 茨城県八郷町立柿岡小学校 神奈川県大和市立草柳小学校 静岡県雄踏町立雄踏小学校 鳥取県境港市立外江小学校 香川県三野町立大見小学校 福岡県福岡市立長丘小学校 |

健康づくりに！ カワイのビタミンAD剤

カルシウムを含んだビタミンADゼリー剤

アドロップ[®]M

1粒中 { ビタミンA 2,000国際単位 リン酸水素カルシウム 30ミリグラム
 { ビタミンD₂ 200国際単位

カワイ肝油ドロップ[®]3号

1粒中 { ビタミンA 3,000国際単位
 { ビタミンD₂ 300国際単位

カワイ肝油ドロップ[®]C

1粒中 { ビタミンA 3,000国際単位
 { ビタミンD₂ 300国際単位
 { ビタミンC 20mg



河合製薬株式会社
東京都中野区新井2-51-8

河合研究所
東京都中野区中野6-3-5